

八子正彦の特別活動（第1学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

次期学習指導要領では話し合いの進め方に沿うことを前提として、合意形成して実践することのよさを理解する子どもを育成することが、低学年の内容の取扱いに明記されている。低学年の学級活動において、みんなで話し合ったことが遊びの楽しさにつながる実感を積み重ねることが、合意形成して実践することのよさを理解することにつながると思う。そこで私は、**他者の意見に共感して話し合い、見いだしたことを生かして遊びを楽しむ子ども**の育成を目指す。

これまでの学級活動の話し合いでは、意見の異なる子どもが折り合いを付け、最終的に一つの結論を出すという子どもの姿を目指してきた。しかし、自分の意見は主張するものの、他者の意見については問題点の指摘に偏った発言が多かった。その結果、他者と折り合いを付けて最適解を導き出す姿には至らなかった。

この原因は、他者の意見の根拠が十分に分からないまま、多数決で集団決定を行ってきたことにあると思う。意見の根拠には、子どもの思いが込められている。その思いを分かってもらえなければ、折り合いを付けようという気持ちが生まれることはないからである。

私はまず、話し合い場面において、みんなで遊んで感じた楽しさと難しさを問う。子どもは、楽しさと難しさの両方を考えることで、他者の立場に立ち、他者の意見の根拠や思いが分かる。この姿が、他者の意見に共感している姿である。他者に共感して話し合うことで、折り合いを付けた意見を見いだす。そして、その意見の中で自分が遊びに生かせそうなことを明確にさせ、すぐに遊びに取り組みさせる。子どもは、自分が考えた遊びに生かせそうなことを考えて実践し、遊びを楽しむことができる。このような活動を繰り返すことで、子どもは話し合ったことと実践とをつなげて考え、そのよさを理解することができるようになっていく。

2 本研究で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○自主的な話し合い活動の進め方についての知識や技能	○所属する様々な集団や社会、自己の生活上の課題を見いだす力 ○話し合いについての合意形成を図る力 ○課題解決のために考えたり話し合ったりしたことを基に、自分の意思を決定する力	○協力して目標を達成しようとする態度

3 主張する働き掛け

学級力アンケート等の調査を行い、学級での生活について振り返らせる。その結果から、教師と子どもとでみんながもっと仲良くなるための遊びを決定し、CCTで実際に遊ぶ。その後、子どもに遊んだ感想を書かせる。子どもは、みんな自分と同じような感想をもったと考え、集団の課題には気付いていない(C0)。

働き掛け1

遊んで「楽しかった」「楽しくなかった」と感じた人数を提示する。

子どもに問題意識をもたせるための働き掛けである。

遊んだ感想を教師が集約し、「楽しかった」と「楽しくなかった」のそれぞれの人数を提示する。子どもは、その人数を見たり聞いたりして、自分の感想との違いに気付く。教師は、今の状態が学級目標の姿が問い、子どもに学級目標に立ち返らせる。子どもは、**所属する集団や自己の目標と実態とを、比較して考える**という「見方・考え方」を働かせ、学級の生活上の課題を見だし(②思考力・判断力・表現力)、もっとみんなで楽しく遊びたいと考える。

働き掛け2

遊びの難しさと楽しさ、共通するものを問う。

他者の立場に立たせ、共感を生ませるための働き掛けである。

教師が、遊びの難しさと楽しさを問う。子どもは、**他者の立場で類推して考える**という「見方・考え方」を働かせ、話し合いについての合意形成を図る力を発揮し(②**思考力・判断力・表現力**)、遊びの難しさと楽しさをベン図に書いて(⑤**ツール活用能力**)、発表する。教師は、子どもから出された難しさと楽しさを板書していく。すると、子どもはその遊びには難しさにも楽しさにも共通して含まれるものがあることに気付く。その共通点から、みんなで様々なアイデアを出し合うと軽減する難しさを考えさせる。

働き掛け3

遊びの難しさを軽減する方法を問う。

資質能力を発揮させ、課題を解決する方法を考えさせるための働き掛けである。

もっとみんなで楽しく遊ぶために、難しさを軽減する方法を問う。子どもは、**集団の課題に着目する**という「見方・考え方」を働かせて、協力して目標を達成しようと(③**態度**)、難しさを軽減する方法を出し合う(①**知識・技能**)。教師は、見いだされた遊びの難しさを軽減する方法を板書し、掲示しておく。

働き掛け4

もっとみんなで楽しく遊ぶために自分に生かせそうな方法を問い、試しの活動を行わせる。

話し合いで見いだしたことを実践につなげさせるための働き掛けである。

話し合いによって見いだした遊びの難しさを軽減する様々な方法の中から、次に遊ぶときに自分が取り入れられそうな方法を問う。子どもは、**所属する集団や自己の目標と実態とを、比較して考える**という「見方・考え方」を働かせて、課題解決のために考えたり話し合ったりしたことを基に、自分の意思を決定する力を発揮し(②**思考力・判断力・表現力**)、自分に生かせそうな方法を選ぶ。その後、試しの活動を行わせる。子どもは、選んだ方法を用いて、その方法ができそうか試しながら遊ぶ(④**協働性**)。子どもは、**他者の意見に共感して話し合い、見いだしたことを生かして遊びを楽しむ子ども**(Cn)になる。

働き掛け5

ミニ集会を設定する。

子どもに、話し合いで見いだしたことを実践させるための働き掛けである。

ミニ集会を設定し、行わせる。子どもは、もっとみんなで楽しく遊ぶための自分のめあてをもち、ミニ集会を行う。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け2と4を受けて、他者の意見に共感して話し合い、見いだしたことを生かして遊びを楽しむことができたかどうかを、子どもの発言、ワークシートの記述、聞き取りから判断する。
- ② 働き掛け1, 2, 3, 4を受けて、想定した見方・考え方を働かせているかどうかを、子どもの姿や発言、ワークシートの記述から判断する。
- ③ 働き掛け1, 2, 3, 4を受けて、想定した資質・能力を発揮しているかどうかを、子どもの姿や発言、ワークシートの記述から判断する。

5 年間の授業計画

- | | | |
|-------------|------|--------------------------|
| (1) 指定研究授業 | (6月) | 「ミニおにぎり集会で木とリスをしよう」(2時間) |
| (2) 中間検討会 | (9月) | 「ミニおにぎり集会で島おにをしよう」(2時間) |
| (3) 初等教育研究会 | (2月) | 「ミニおにぎり集会で大縄をしよう」(2時間) |